

《実績》

2012年度、我々が手術室で加療を行った主な疾患は食道癌4例、胃癌23例（腹腔鏡手術1例）、大腸癌66例（うち腹腔鏡手術19例）、痔25例、肝胆膵系腫瘍25例、胆石胆嚢ポリープ89例、ヘルニア101例、腹膜炎5例、移植2例である（詳細は別表）。化学療法との組み合わせで成績が向上している大腸転移性肝癌の肝切後の生存率は昨年同様良好で（図1）、肝切後5年生存率は50%以上を維持している。一方、腹部悪性腫瘍の中でも最も治癒しがたいとされている膵癌の開院からの9年間の切除例は29例で、そのうち、stage Iは3例で（IPMC, ITPC1例ずつ含む）、stage IIはなく、stage III 8例、IVa 13例、IVb 5例であった。全症例の生存曲線は図2のとおり、5年生存率は30%で、日本膵臓学会膵癌登録における過去の全国レベルの成績より良好であった。当院で放射線治療が可能になってからは術前放射線化学療法で切除可能になった進行膵癌症例や、膵癌術後再発に対する放射線化学療法の著効例、長期生存例を経験しており、今後の成績の向上が期待される。

食道	胸部食道切除	3
	ESD	1
胃	幽門側胃切除（悪性）	10
	胃全摘（悪性）	8
	噴門側胃切除（悪性）	0
	腹腔鏡下胃切除（悪性）	0
	腹腔鏡下胃全摘（悪性）	1
	胃切除（良性）	1
	胃切除（腹腔鏡下）	1
	胃その他	6
小腸・大腸	イレウス解除（開腹）	4
	イレウス解除（腹腔鏡）	2
	小腸切除（開腹）	3
	小腸切除（腹腔鏡）	1
	虫垂切除（開腹）	5
	虫垂切除（腹腔鏡）	2
	結腸切除（開腹）	32
	結腸切除（腹腔鏡）	12
	人工肛門造設術	9
	人工肛門閉鎖術	3
	高位前方切除	8
	低位、超低位前方切除	3
	腹会陰式直腸切断	1
	直腸手術（腹腔鏡）	7
	経肛門的腫瘍摘出	2
	痔核、裂肛、痔瘻、直腸脱	25
肝胆膵	PD	7
	膵体尾部切除	3
	膵手術（その他）	0
	肝切除（部分切除）	4
	肝切除（亜区域以上）	6
	胆嚢癌手術	1
	胆管空腸吻合	2
	胆摘（開腹）	10
	胆摘（腹腔鏡）	74
	胆管切開術（開腹）	4
ヘルニア・その他	鼠径大腿ヘルニア	95
	腹壁ヘルニア	4
	内ヘルニア	2
	汎発性腹膜炎手術	3
移植	その他	10
	腎移植	2
移植	移植腎採取	2
	計	384

図1 大腸癌肝転移切除後生存率曲線

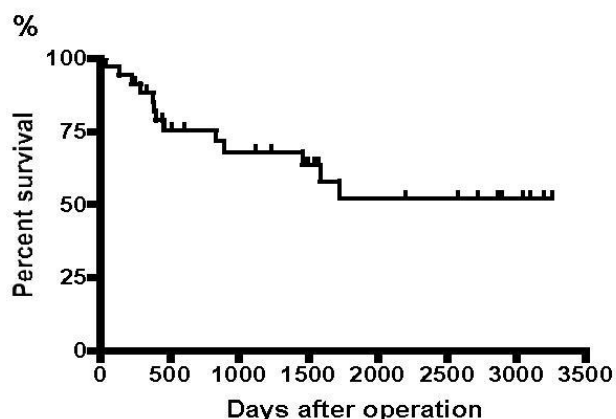


図2 膵癌切除後生存率曲線

